

自由課題:緊急緩和ケア病床利用患者数
(平成29年7月1日～12月末日)

施設名	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
17 大阪国際がんセンター	15名	<p>例年24名/年程度が把握されている。本病床は緩和処置のために緊急入院が可能ないように病床を必ず空けて通常の入院枠とは別に確保運用している病床である。当院への緊急入院では、化学療法の有害事象が理由となる場合もみられるが、緊急入院すべてをこの病床対象とはせず原則診療科対応としている。この病床は現在は緩和ケアチームの関与が必要な症例を対象としている。</p> <p>症状緩和を目的に緊急入院されたすべての患者さんは原則的に緩和ケアチームが初期対応に参加し、専門的緩和ケアの介入が必要か判断し、早急に症状緩和に取り組む。新病院移転後病床稼働率の上昇とともに、病床確保が困難となる事態も予想されるが、制度として求められているがん治療患者の緊急時の円滑な対応をベッド確保を支えるべく、緊急緩和ケア病床を満床とすることなく運営することによって、より多くの対象患者に利用してもらえるよう努力する。</p>	<p>13例 目標例数には達せなかったが、例年通りの数字は確保できた。当該診療科で対応されたケースは含まれていない。</p>	<p>入院稼働率は4月当初より上昇したが、緊急入院ができないレベルではなく、必要な症例は入院がなされていた。今後は緊急緩和ケアの概念を今一度検討しなおし、あり方を示したい。</p>